

6 ワークショップ

01

紙粘土モチーフ作り〜作って身に付けよう〜



紙粘土で好きな形を作り、色を付けたあとに乾燥させて仕上げる内容である。着色の技法を出展者から直接教えてもらいながら製作する。完成した作品はネックレス、キーホルダーやマグネットなどにアレンジができ、世界にひとつだけの作品を持ち帰る点が魅力である。

02

廃材に色をのせる



木片の廃材となったものを素材として使い、来場者が自由に絵の具で着色をする内容である。モチーフ作りよりもアクリル絵の具での色ののせ方を学ぶことができる。作ったものはマグネットとして活用できる。

03

イベントゲーム



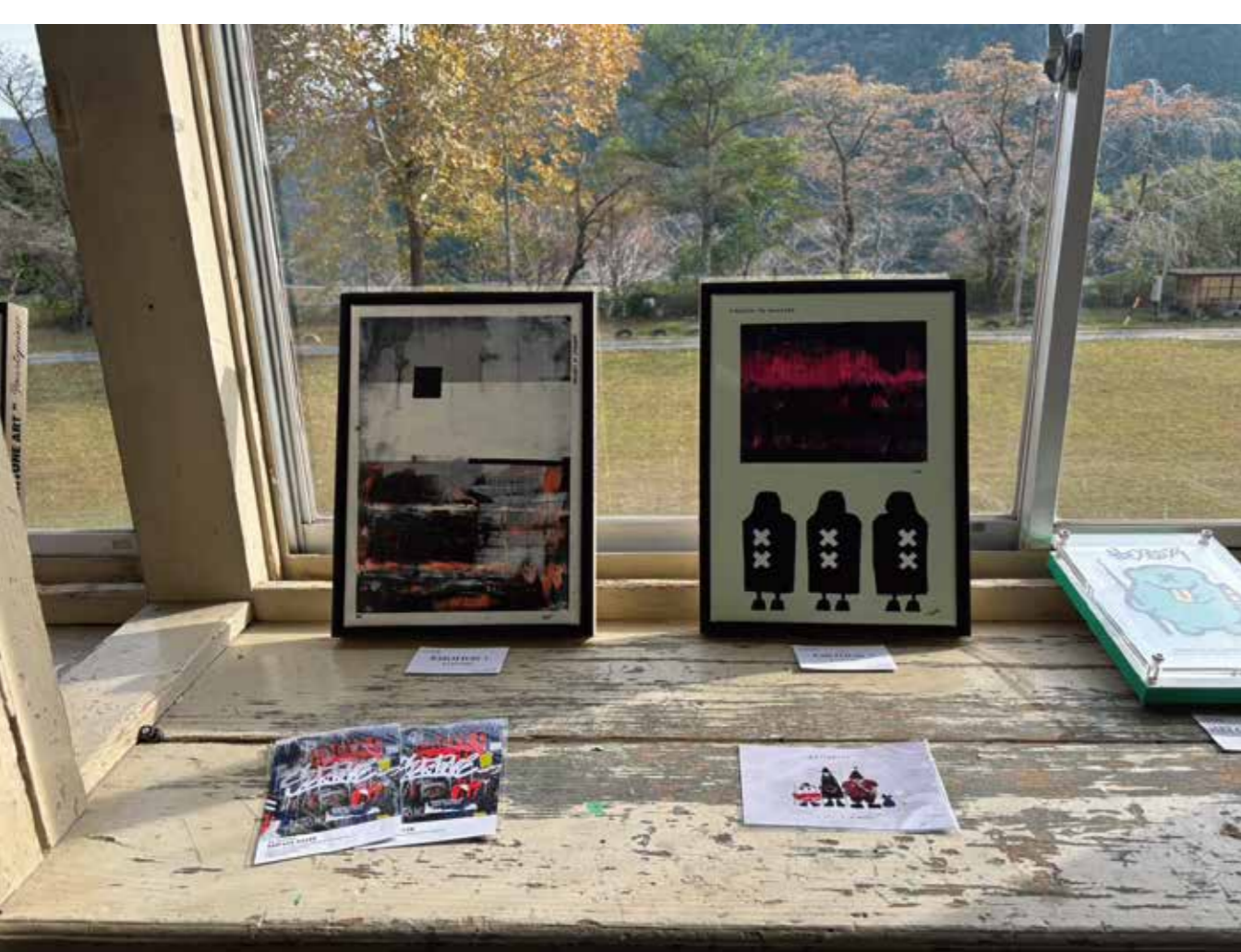
来場者が気軽に参加できる遊びの要素を加えた。ゲームにクリアすると景品としてお菓子がもらえる形式とし、乾燥させる時の待ち時間や製作に対してハードルが高い方でも参加しやすく楽しんでもらえるように考えた。魚釣りでは、魚のイラストに裏にシールが付いていたら当たりとなる。キャラクター探しでは、東栄町の神話をモチーフに作られたキャラクターなど個性豊かなキャラクターが会場内に散りばめられた。

7 出展者と作品

精肉店

安田 誠

愛知県出身。1978年生まれ。家業である精肉店にて代表取締役を務めている。80年代に観た映画に登場するキャラクターが欲しくて、自ら作成したことが始まり。



デザイナー
ないちゅ〜ん

釣り × ART をコンセプトにした作品をメインに展開。釣り好きの人にもそうでない人にも ART をきっかけとして釣りにも興味をもってもらいたい。自身の活動と同じように様々なカルチャーが融合しその独自の世界観が ART として生み出されている。

本業に差し支える作品展

1 背景

香川県・直島を訪れた際に、アートが自然環境や建築、文化的背景を読み解く手がかりとなり、まちおこしに寄与していることを実感した。また、阿部研究室では2015年以降、東栄町を対象とした卒業研究が継続的に行われており、地域資源を活かしたまちづくりの実践が蓄積されてきた。これらの経験から、東栄町における地域活性化と創作活動に関心を持った。

〔図1〕直島 「赤かぼちゃ」草間彌生



〔図2〕東栄町 鳶の淵

2 目的

本研究では、「廃校×アート活動」をコンセプトとし、東栄町体験交流館のき山学校にて作品展およびアート体験型ワークショップを実施する。これらの企画が町外の来場者が東栄町の魅力に触れる機会となり地域活性化に寄与することを目的とする。さらに、来訪者の属性・満足度を把握し、企画の実態と今後の展開を明らかにする。



〔図3〕東栄町体験交流館 のき山学校

3 会場

東栄町体験交流館 のき山学校

平成22年に閉校した旧東栄町立東部小学校を活用した廃校活用施設である。特定非営利活動法人てほへが指定管理者として、地域内外住民の交流促進とともに観光の振興及び集落の活性化をはかる目的で運営している。石窯での手作りピザ体験・和太鼓体験・木工体験といったイベントや講堂・グラウンド・各教室でのフリースクール等で利用されている。館内には東栄町図書室「のき山文庫」や「Café のつきい」など施設を備えている。



〔図4〕4年生教室



〔図5〕旧図書室



〔図6〕廊下



〔図7〕放送室

4 日時

2025/11/2(日)～11/9(日)

11:00～16:00

ワークショップ：2日・9日のみ開催

5

コンセプト

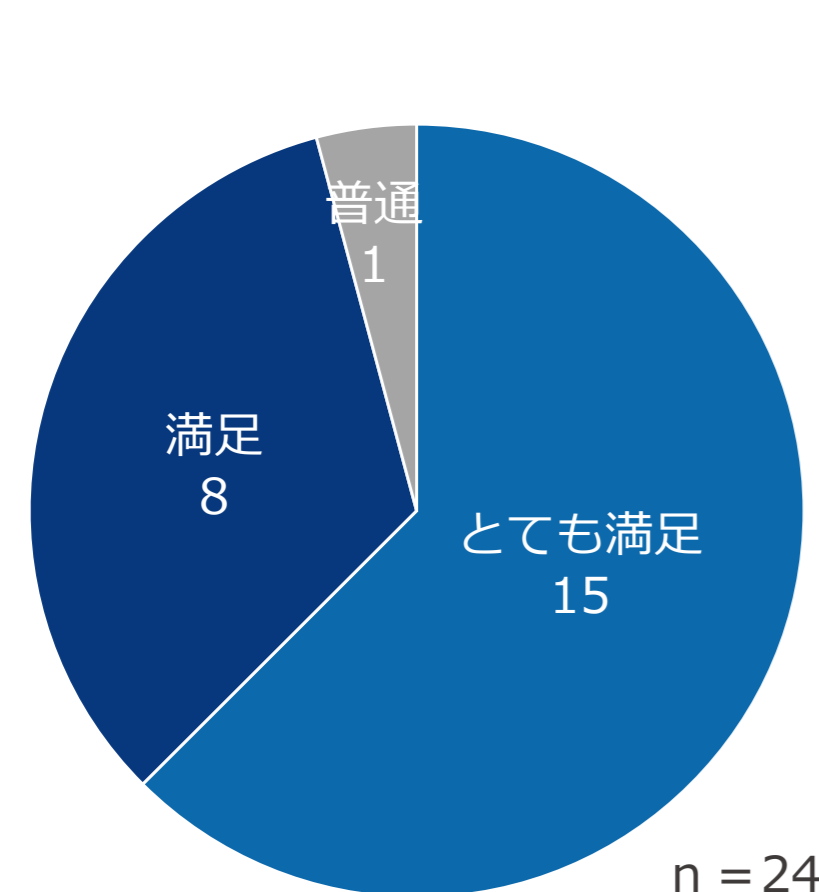
これは副業でもなく、仕事でもない。ただ、やめられない「癖」。本業を持ちながらも創らずにはいられなかった人たちの「衝き動かされる」作品を集めました。寝る間も惜しみ、魂に手を伸ばし作品へと注ぎ込む、そんな日々の静かな情熱を感じてみませんか。

大学生 山本 ひより

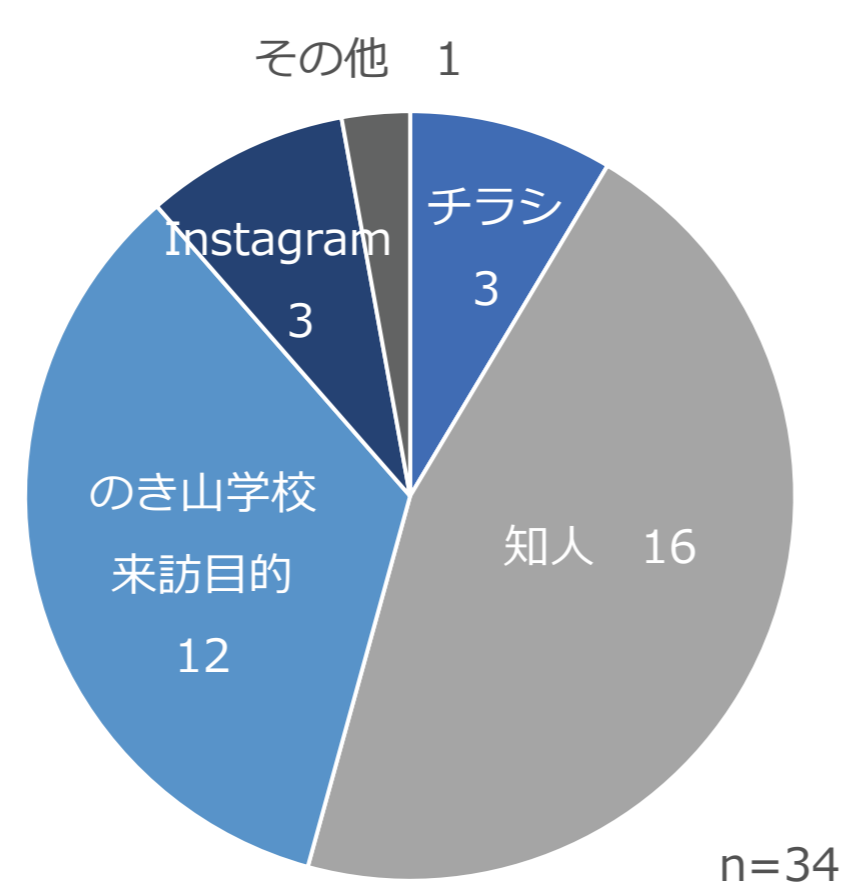
大学2年生の時に、ロールモデルにしている方が編み物をやっていることを知って真似をした。幼少期からものづくりと服が好きだったこともあり、唯一無二のものを生み出せることが楽しくて没頭。



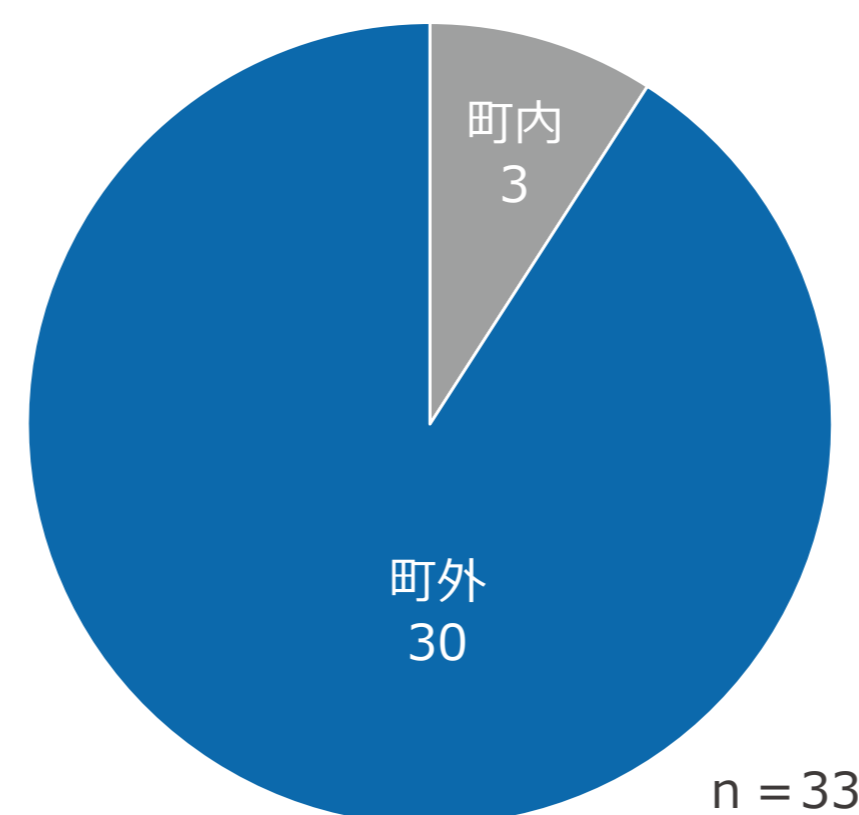
Q. 満足度は？



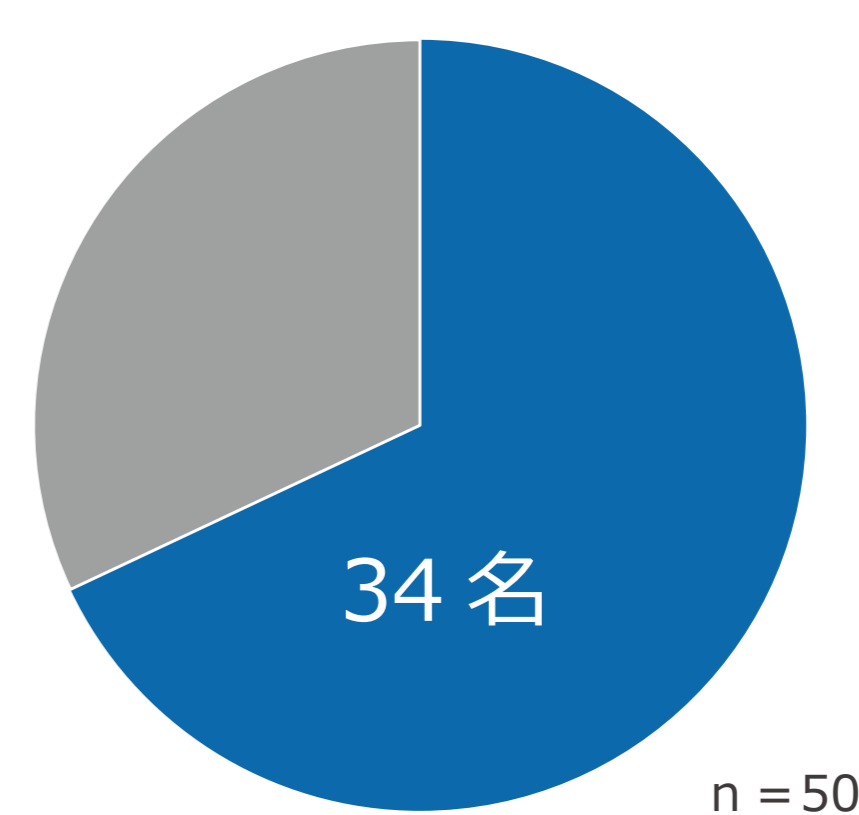
Q. 来場のきっかけは？



Q. お住まいの地域は？



アンケート回答者
来場者 50 名中



10

来場者へのアンケート

分かったこと

作品展の来場者の方へアンケートを実施し、34件の回答を得た。アンケート項目は、回答者属性・作品展参加について・満足度・感想である。以下のことが分かった。

- ・来場者は20代が4割を占めた
- ・約9割が町外からの来訪であった
- ・来場者は出展者の知人とのき山学校来訪目的の方で約8割を占めた
- ・ワークショップでは短時間で気軽に参加できる内容が好評だった
- ・全体の満足度も高く、出展者と直接交流できた点が評価された

集客について

作品展を実施するにあたり、チラシを9カ所へ600部配布とInstagramでの告知を行ったが、単体での効果はほとんどなかった。しかし、併設されているカフェからの呼び込みや知人への勧誘に役立ち補助的な効果はあった。

実際の来場のきっかけは出展者の知人やのき山学校来訪目的の方が多く、人や場所が入り口になったことで作品展が目的でなかった人も取り込むことに繋がった。

来場者からの感想

- ・面白かった
- ・心癒やされた
- ・素敵な作品だった
- ・作家さんと直接話を聞けて交流できてよかった
- ・実際に見て、発想が新鮮でした
- ・学校の中ということで、懐かしかった
- ・雰囲気良くてゆっくり見られてとてもよかった
- ・大人でも夢中になって楽しめた

11 結果と考察

来場者の満足度や滞在行動には、作品そのものだけでなく、展示空間の雰囲気や出展者との交流を含めた体験全体が大きく影響していた。また、開催期間中のカフェの売上の売上は倍増しており、作品展が施設全体の利用促進に寄与したことが分かった。このことから、出展者と直接対話できる点や施設全体が高く評価されたことにより、作品・人・場が一体となった体験が価値として受け取られていたことが満足度の高かった理由だと考えられる。

12

今後に向けて

本作品展を通じて、空間や作品だけでなく人との繋がりによって、作品展の価値が大きく広がることを実感した。今後の可能性を広げるために、一過性でなく、丁寧に人との関係性を育てていくことが重要である。また、のき山学校の空間特性を活かし、滞在型・回遊型の構成や来場者と出展者の交流機会を意識的に考えると町内外の方の交流が豊かになると感じた。

謝辞

本企画の実施にあたり、会場をご提供いただいたのき山学校の皆様、ならびに多くのご助言とご協力を賜った安田様に、心より感謝申し上げます。



8 作品展の様子



9 ワークショップの様子

